

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：農業費 項：農業振興費 目：主要農作物対策費

事業名 麦・大豆生産性向上対策推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農産園芸課 米麦大豆係 電話番号：058-272-1111(内4117)

E-mail：c11423@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,836 千円 (前年度予算額： 2,541 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	2,541	2,241	0	0	0	0	0	0	300
要求額	1,836	1,536	0	0	0	0	0	0	300
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

水田フル活用を推進するために必要な作物である麦・大豆は、実需から安定供給と品質向上を求められている一方で、単収が伸び悩む地域があるとともに、品質や年次変動が大きいいため、需要に応じた生産拡大と収量・品質の高位安定化が必要となっている。

(2) 事業内容

○麦・大豆増産対策チームの設置

関係各課等との連携による、収量や品質等の生産性向上対策の方針検討

○麦・大豆の収量向上と高位安定生産対策

<麦>

- ・産地と実需が連携する岐阜県麦民間流通地方連絡協議会への参加
- ・耐病性や収量性が期待される品種「タマイズミR（小麦）」、「カシマゴール（大麦）」、「ファイバースノウ（大麦）」の大規模実証と、実需と連携した品種評価の実施
- ・単収が伸び悩む地域での栽培技術の検証

<大豆>

- ・麦後大豆栽培における栽培技術改善の実証（土づくりと施肥改善の検討、播種時期の前進化に向けた「フクユタカA1号」の実証等）

(3) 県負担・補助率の考え方

- ・県内麦・大豆産地における需要を捉えた生産拡大と安定供給の実現のため、県負担は妥当である。
- ・国の持続的生産強化対策事業のうち、戦略作物生産拡大支援事業を活用（補助率；国費10/10）

(4) 類似事業の有無

- ・無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	55	業務旅費
需用費	743	消耗品費、燃料費
役務費	830	分析費用、通信費
使用料	208	ほ場借上げ料
合計	1,836	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「ぎふ農業・農村基本計画」

(2) 安心して身近な「ぎふの食」づくり

②水田農業における安定供給体制の構築と新たな展開

- ・麦、大豆、加工業務用野菜の生産推進

(2) 国の状況

「食料・農業・農村基本計画」（令和2年3月31日閣議決定）

第3 食料、農業及び農村に関し総合的かつ計画的に講ずべき施策

2. 農業の持続的な発展に関する施策

(6) 需要構造等の変化に対応した生産基盤の強化と流通・加工構造の合理化

③ 米政策改革の着実な推進と水田における高収益作物等への転換

- イ 麦・大豆

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 ・需要に応じた麦・大豆の品種導入、安定生産対策を実施し、令和7年度までに麦・大豆の生産量を「ぎふ農業・農村基本計画」に掲げる目標まで増加させる。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (H28)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R7)	達成率
①麦の生産量 (t)	7,770	9,468	10,080	10,242	11,520	62%
②大豆の生産量 (t)	3,070	3,020	3,353	3,477	4,850	16%

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> 取組内容と成果を記載してください。 ◆麦の生産振興 <ul style="list-style-type: none"> 大麦品種「カシマゴール」の大規模実証と加工評価の実施（1ヶ所） 収量・品質向上に向けた施肥体系の実証（15ヶ所） ⇒「カシマゴール」については収量性が高く、麦茶用途に適することを確認できた。 ◆大豆の生産振興 <ul style="list-style-type: none"> 新たな大豆品種の加工適性評価の実施（3品種） ⇒「サチユタカA1」「九州182号」「里のほほえみ」について、実需と連携して評価を実施した。
令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> ◆麦の生産振興 <ul style="list-style-type: none"> 大麦「カシマゴール」への品種切替に向けた大規模実証、加工評価を継続実施し、生産・実需の両サイドから高評価が得られ、令和6年産での切替予定となった。 上記以外に、小麦での栽培実証、大麦「ファイバースノウ」への品種切替に向けた栽培実証を継続し実証を行い、年次変動などを確認した。 ◆大豆の生産振興 <ul style="list-style-type: none"> 梅雨時期の大豆播種遅延や地力消耗を要因とする収量低下の課題解決に向けた栽培実証を西濃、揖斐地域で実施。初年目の試験もあるため、年次変動含め次年度も継続検討を行うこととした。 <p>指標① 目標：9,720t 実績：9,468t 達成率：87 % 指標② 目標：3,480t 実績：3,020t 達成率：-12 %</p>
令和4年度	<p style="color: red;">令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない	
(評価) 3	米の消費量の減少及び米価下落がある現状、水田の有効利用を図るため、 麦・大豆を転作作物として推進する必要がある。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	実需者のニーズを踏まえた品種の導入や品質向上技術の確立は、食料の安定供給や生産基盤の強化にも繋がり、本事業の有効性は高い。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている	
(評価) 2	計画や進捗状況、取組成果について関係機関と検討を図るとともに、必要に応じて、生産者団体等と連携し、技術確立の効率化に努める。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 ・主食用米の需要が減少する中で、水田のフル活用のためには、水田において需要がある麦・大豆の作付けを推進する必要がある。しかしながら、収量や品質の年次変動が激しく、需要に十分に 대응することが出来ていない状況。 ・新たな品種や栽培技術をスムーズに取り込んで頂くため、生産者団体等と連携し、技術のPRや普及導入を進める必要がある。	
---	--

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか ・実需者から支持される麦・大豆の高位安定生産拡大と新技術の導入 ・大豆単収及び品質の年次変動を克服できる栽培技術の確立普及	
--	--